

「知識は、唯一経験から得られるものだ。」アインシュタインのこの言葉を派遣事業を通して、身に染みて感じた。

私にとって初の海外。興奮と少しの不安を抱え、アメリカの地を踏んだ。アメリカは、雄大で、考え方や人々のバックグラウンドも多種多様で、五感で感じるすべてがとても刺激的だった。

そんな新鮮な体験に、初めは順応するのに精一杯で目まぐるしく時間が過ぎていったが、そんな不安を払拭させてくれたのは明るく優しいホストファミリーだった。いつも自分達の考えや思いを重んじ、気さくに話しかけてくれ、笑顔を絶やささない。なんて素敵な方々だろう。ダウンタウンや夜のアーケードの散策、ハイキングの帰りに寄った店での顔より大きいドーナツ、アメリカならではのゲームなど、短い滞在期間で多くの貴重な体験をさせてもらった。最も印象的だったのは、私と歳の近い姉弟と遊んだことや趣味や日本とアメリカの話題、教育に関する会話で、日米の価値観の違いを感じたことだ。ホストファーザー、マザーは共に医者で同級生のホストシスターも医者志望。以前から医療に興味があった私は沢山意見交換ができ、とても嬉しかった。その会話の中でアメリカの教育システムには習熟度によって飛び級などがあることを知った。教育に限らず、個々が持つ能力や個性を認め合い、"自分"を持って自己主張するアメリカと、他者と調和し謙虚な心を持つ日本。どちらもかけがえのない尊重すべき文化であると思う。アメリカの文化に触れ、同じ地球上には、多様な考えを持つ人々が存在し、人種などのくくりはなく、そこには一人ひとりの人間がいるということに再認識させられた。また多様な人間がいる中でも、日本と異なる文化でも共通していたこと。それは、「人の温かさ」であると感じた。初対面でもフレンドリーに話しかけてくれたり、色々と言ってくれたり、この9日間、何度、人の温かさに助けられただろう。その心遣いには言語、人種、文化の隔たりをも打破する力が秘められていると実感した。

現地のバスガイドさんから「中学生の皆さんはまだ白い自分のキャンパスに沢山のことを経験して少しずつ色をつけていく段階。どんどん自分色にしていってね。」と言われた。今回の経験によって得た学びは数知れない。きっとそのキャンパスに多くの彩りがついたらと確信している。

今回の姉妹都市派遣を通して、今後の人生につながる多くの経験し、自身の様々な感覚が磨かれ、見ている世界の解像度が高められた。現状にとどまることなく、今後も経験を積み重ねていきたい。そしてこの富士吉田市に寄与できる人材になりたいと思う。

多くのものを得て、無事に帰国できたのもひとえに富士吉田市、コロラドの方々、家族を始め、本事業に携わって頂いた全ての方のおかげです。本当にありがとうございました。